

公開シンポジウム：高等教育における科学技術史と科学基礎論

一『科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査』を踏まえて一

□ 日時 2017年6月3日(土) 13:00~15:30

□ 会場 香川大学教育学部・幸町4号館412教室

◇ 開催趣旨

シンポジウムは、高等教育における科学史・技術史関連の教養教育を中心とした現状・意義について検討するために、日本学術会議の学術協力団体である日本科学史学会と科学基礎論学会と協力・共同で行われる。日本科学史学会は2016年に学会75周年事業の一環として、関連学協会の協力を得て、「科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査」に取り組んだ。この調査は科学史や技術史、科学哲学に加え、科学論、技術論、科学技術社会論、科学社会学、科学者倫理、技術者倫理、科学哲学なども含めた近接分野における関連科目の日本国内での開講状況を探ろうとするもので、その特色は、過去に行われた同様の調査を参考にしつつも、授業の開講形態や対象者、科学技術史的内容の含まれる度合いを聞くなど、より多様な情報を収集したことにある。

シンポジウムでは同調査の成果を紹介する。その上で、両学会ならびに当分科会からの更なる質的、量的な現場情報を持ち寄り、科学史・技術史および科学基礎論関連領域の授業がいかなる状況にあり、どのような変化が生じているのか、そして今後どうあることが望ましいのかを、フロアの意見を交えて検討する。学部と大学院の違い、教養と専門教育、また科学史、技術史、科学哲学などの分野ごとの差異を踏まえた議論を行ない、その実情・課題を包括的に明らかにする。

◇ 次第

13:00 開会

13:00~13:05 趣旨説明

隠岐さや香（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学部教授）

13:05~13:30 「『科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査』について」

杉本 舞（日本科学史学会委員、関西大学社会学部准教授）・隠岐さや香（同上）

13:30~13:50 「高等教育における科学基礎論・科学哲学・科学の倫理」

村上 祐子（科学基礎論学会理事・東北大学大学院文学研究科准教授）

13:50~14:00（休憩）

14:00~14:20 「教養教育における科学史・技術史関連科目の現状と位置づけ」

小長谷大介（日本科学史学会普及委員、龍谷大学経営学部教授）

14:20~14:40 「大学教育の分野別質保証と科学技術史」

佐野 正博（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

14:40~15:00 「方法論としての科学史を生かした大学院教育：学際的大学院における院生指導の実践から」

松原 洋子（日本学術会議連携会員、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授）

15:00~15:30 総合討論

15:30 閉会

□ 参加費：無料・事前申込み不要（本企画は日本科学史学会年会にて開催されます）

□ 主催 日本学術会議史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会

□ 共催 日本科学史学会、科学基礎論学会